

- jsp?tutId=3, (参照 2011-11-01).
- (11) パブリックドメインの電子書籍（「公版書」）には貸出期間が設定されていないため、無期限に借りることができる。
 - (12) EPS を利用するためには国家図書館の「単一登入口網站會員」（シングルサインオンアカウント）を取得する必要がある。日本からでも国家図書館のウェブサイト（以下のURL）から取得することが可能である。
“國家圖書館「單一登入口網站」會員服務規範”. 國家圖書館・臺灣廣域數位圖書館.
<http://www.ncl.edu.tw/sp.asp?xdurl=member/userRegisterLaw.asp>, (参照 2011-11-01).
 - (13) “新手上路”. 國家圖書館數位出版平台系統.
<http://ebook.ncl.edu.tw/webpac/ebookTutorial.jsp?tutId=5>, (参照 2011-11-01).
 - (14) “國圖電子書親子用 iPad 在家看”. 聯合新聞網. 2011-08-24.
http://mag.udn.com/mag/campus/storypage.jsp?f_MAIN_ID=87&f_SUB_ID=327&f_ART_ID=338377, (参照 2011-11-01).
 - (15) “NCL Reader for iPad on the iTunes App Store”. Apple. 2011-08-19.
<http://itunes.apple.com/us/app/nclreader/id422802099?mt=8&ls=1>, (accessed 2011-11-08).
 - (16) 『牡丹亭還魂記』のEPSの書誌は以下で見ることができる。牡丹亭還魂記. 國家圖書館數位出版平台系統. <http://ebook.ncl.edu.tw/webpac/bookDetail.jsp?id=1300>, (参照 2011-11-01).
なお、國家図書館の古典籍のデジタルアーカイブデータベースである古籍影像検索システムでの牡丹亭還魂記の書誌は以下で見ることができる。
詳目式查詢結果. 古籍影像検索系統.
http://rarebook.ncl.edu.tw/rbook/hypage.cgi?HYPAGE=search/search_res.hpg&sysid=15096&v=, (参照 2011-11-01).
 - (17) 2011年11月1日現在。詳細検索で検索項目「出版社」、キーワード「國家圖書館轉製」で確認した件数。
查詢結果. 國家圖書館數位出版平台系統.
http://ebook.ncl.edu.tw/webpac/bookSearchList.jsp?search_field=PU&search_input=%E5%9C%8B%E5%A%B6%E5%9C%96%E6%9B%B8%E9%A4%A8%E8%BD%89%E8%A3%BD%&showtuple=10&sort_field=OPN&order=0&searchtype=0&phonetic=0&startYear=&endYear=&lang=&collection=, (参照 2011-11-01).
 - (18) “國圖電子書親子用 iPad 在家看”. 聯合新聞網. 2011-08-24.
http://mag.udn.com/mag/campus/storypage.jsp?f_MAIN_ID=87&f_SUB_ID=327&f_ART_ID=338377, (参照 2011-11-01).
 - (19) 鄭秀梅. “以讀者需求規劃之電子書閱覽服務”. 國立政治大學圖書資訊與檔案學研究所. 2010-11-05.
<http://www.lias.nccu.edu.tw/video/wp-content/uploads/2010/11/1-4.pdf>, (参照 2011-11-01).
 - (20) 台湾では「數位典藏與數位學習國家型科技計畫」(Taiwan e-Learning and Digital Archives Program; TELDAP) というデジタルアーカイブプロジェクトが全台湾的といつてよい規模で進められている。前身のプロジェクトである「數位典藏國家計畫」(National Digital Archives Program) (2002-2008年) を含めると開始から10年が経過しており、すでに台湾の各機関では大量のデジタルアーカイブが作成されている。そのTELDAPでは少しずつではあるが、プロジェクトの成果であるデジタルアーカイブのコンテンツを電子書籍 (EPUB形式) として公開する試みを開始した。デジタルアーカイブのコンテンツを電子書籍化して提供する試みが國家図書館とTELDAPで並行して進められているが、今後、この2つの動きがどのように進展していくのか注目される。
數位典藏與數位學習國家型科技計畫.
<http://teldap.tw/>, (参照 2011-11-01).
數位典藏國家計畫. <http://www.ndap.org.tw/>, (参照 2011-11-01).
網上書上網—數位典藏與學習電子書庫.
<http://ebook.teldap.tw/>, (参照 2011-11-01).

CA1760 デジタル化資料の共同リポジトリ HathiTrust 一図書館による協同の取り組み

はじめに

米国の大学図書館等が共同で運営しているデジタル化資料のリポジトリ HathiTrust⁽¹⁾は、ミッションとして「人類の知識の記録の収集・組織化・保存・伝達・共有により、公益に貢献すること」⁽²⁾を掲げ、2008年に運営が開始された。その活動は、単なる保存だけでなく、他システムとの連携、印刷資料の管理支援、著作権調査等、多岐にわたっている。本稿では、その概要や最近の動向を紹介する。

1. HathiTrust の概要

HathiTrust は、ミシガン大学とインディアナ大学を含む米国中西部の大学コンソーシアムの13大学、カリフォルニア大学、バージニア大学により2008年10月から運用が開始された。その後、参加機関数は着実に増加し、2011年10月現在で58機関となっている⁽³⁾。ハーバード大学やイェール大学等の米国の主要な大学の図書館に加え、ニューヨーク公共図書館、米国議会図書館 (LC)、スペインのマドリッド・コンプルテンセ大学も参加している。

後述のように、コンテンツの大半は Google ブックプロジェクトでデジタル化された HathiTrust 参加館の蔵書であるが、カリフォルニア電子図書館のクリステンソン (Heather Christenson) 氏は、Google のプロジェクトとの違いとして、長期保存への取り組みを正式に表明していることや、図書館が保持してきた価値 (保存、品質、プライバシー、アクセス等) を奉じていることを挙げている⁽⁴⁾。また、電子資料の保存プロジェクトである Portico や CLOCKSS との違いとして、対象が出版社のデータによる電子資料ではなくデジタル化した資料であること、雑誌の廃刊等のトリガーイベント発生時のみ利用可能となるダークアーカイブではなく (著作権法の範囲内で) 資料を公開しているライトアーカイブであること、出版社と提携しているのではなく図書館のみによる取り組みであることを挙げている。同氏は、HathiTrust は「図書館による図書館のための電子図書館」⁽⁵⁾であるとしている。

ガバナンスは、意思決定機関である執行委員会 (Executive Committee) と方針・計画等を検討する戦略的諮問委員会 (Strategic Advisory Board) から成っており、その下に、課題に応じた委員会やワーキンググループ等が設立されている。運営費⁽⁶⁾は参加館の拠出によっており、各館の拠出額の算出方法は主として

預けている資料の量に基づいているが、2013年からは、その図書館が所蔵する印刷資料と HathiTrust 内の資料との重複等を勘案した新しい算出方法が導入される予定である⁽⁷⁾。

2. コンテンツの保存と利用

2.1. コンテンツの概要

2011年10月現在の登録資料数は約970万点で、図書資料が約520万タイトル、雑誌資料が約26万タイトルとなっている⁽⁸⁾。登録機関別のコンテンツ数は表のようになっており、Google ブックスプロジェクトの提携機関によるコンテンツが大半となっている。Google によるデジタル化ファイルを HathiTrust で使用できるのは、各機関と Google の契約内容に、作成したファイルのコピーをその機関に渡すことや、図書館による共同リポジトリへの登録を可能にすることが含まれているためである⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾。その他に、Internet Archive によりデジタル化された資料や、参加館が独自にデジタル化した資料も受け入れられている。

表 機関別の登録コンテンツ数 (2011年10月1日現在)

機関名	コンテンツ数
ミシガン大学※	4,446,510
カリフォルニア大学※	3,144,989
ウィスコンシン大学※	505,242
コーネル大学	368,256
ニューヨーク公共図書館※	259,165
プリンストン大学※	248,916
インディアナ大学※	186,195
マドリッド・コンプルテンセ大学※	108,344
ミネソタ大学※	88,595
米国議会図書館	73,642
その他 13 大学	272,436
計	9,702,290

※は Google ブックスプロジェクトとの提携機関

出典：Update on October 2011 Activities⁽¹¹⁾の表を基に作成。

コンテンツの言語別の構成では、英語が48%と約半数を占めるが、ドイツ語9%、フランス語7%、スペイン語5%、中国語4%、ロシア語4%、日本語3%等、英語以外の資料も多く含まれている⁽¹²⁾。年代別では、1960年代から1990年代のものが約50%を占め、2000年代のものも約10%含まれている⁽¹³⁾。

2.2. 受入、保存、利用

コンテンツの受入・保存・利用等のプロセス⁽¹⁴⁾は、OAIS 参照モデル (CA1489 参照) に準拠しており、

2011年3月には、研究図書館センター (CRL) から、信頼できるリポジトリとしての認証 (TRAC) を受けている⁽¹⁵⁾。コンテンツはミシガン大学のサーバで受け入れられた後にインディアナ大学のサーバにコピーされ、さらに磁気テープでのバックアップも行われている。

データの投入は、書誌データとコンテンツに分けて実施される。各コンテンツは、画像、OCR のデータ、メタデータを基本のパッケージとして保存される。主な画像フォーマットとして JPEG、JPEG2000、TIFF が使用され、メタデータは METS や PREMIS データ辞書 (CA1690 参照) に準拠したものととなっている⁽¹⁶⁾。そのパッケージとは別に、書誌データと権利情報のデータがそれぞれデータベースで管理される。権利情報については、出版年等による自動判定を基本として、資料ごとの利用の可否や条件等が設定される⁽¹⁷⁾。

Google ブックスについてはメタデータの不備が指摘されたが⁽¹⁸⁾、HathiTrust は図書館が作成したメタデータを基にしている。また、画像についても、品質の確認作業や、博物館・図書館サービス機構 (IMLS) の資金による品質向上のためのプロジェクトが実施されている⁽¹⁹⁾⁽²⁰⁾。

利用者からのアクセスがあった際には、PageTurner というアプリケーションにより、画像データと OCR のテキストデータが引き出され、画像は提供用フォーマット (PNG または PDF) に変換して表示される。同時に、書誌データや権利情報のデータも抽出され、それに基づき書誌情報の表示や利用の可否の判断が行われる。

受け入れた OCR のテキストデータを用いて全文検索用のインデックスが作成され、著作権保護期間内の資料も含めて、全文検索が可能となっている。全文が公開されている資料の場合は、検索結果として該当ページ番号と検索語を含む数行 (スニペット) が表示されるが、著作権保護期間内で非公開の資料の場合は、該当するページ番号のみが表示される。

その他の機能として、利用者が HathiTrust 内の資料を選択して独自のコレクションを作成できる Collection Builder という機能がある。また、参加館に所属する視覚障害者等は、著作権保護期間内の資料も利用可能となる予定であるが、そうした、対象者の確認が必要なサービスの提供に際しては、Shibboleth 認証システム (CA1736 参照) が使用されている⁽²¹⁾。

2.3. 外部連携・データの活用

HathiTrust は保存だけでなくアクセスも重視していることから、コンテンツの発見可能性を高めるための取り組みに力を入れている⁽²²⁾。メタデータは、書

誌 API、データ API、OAI-PMH、タブ区切りファイルの形式で提供されており⁽²³⁾、他機関のシステム等で HathiTrust のコンテンツが検索・利用されている⁽²⁴⁾。2011 年 1 月には、OCLC の WorldCat Local を用いた検索システムのプロトタイプが公開され、HathiTrust 内の資料について WorldCat の詳細な書誌情報を利用することができるようになった⁽²⁵⁾。また、Serials Solutions 社、OCLC、EBSCO 社のそれぞれのディスクバリシステムからも HathiTrust 内の資料の全文検索が可能になる予定である⁽²⁶⁾。

また、2011 年 4 月には、インディアナ大学とイリノイ大学により「HathiTrust リサーチセンター」が設立された⁽²⁷⁾。リサーチセンターでは、両大学のコンピュータ設備等を用いて、HathiTrust のコンテンツを対象にテキストマイニング等の「非消費的研究」⁽²⁸⁾が行われる。パブリックドメインの資料を対象にした、研究者による利用が想定されている。

3. 印刷資料の共同管理の支援

HathiTrust の目標の一つに、資料の共同管理を支援することで印刷資料の管理にかかるコストを削減することがある⁽²⁹⁾。つまり、デジタル化資料を活用することで、利用頻度の低い印刷資料を共同保存に移すことができるのではないかとということである。

2011 年 1 月に刊行された OCLC のレポートは、HathiTrust、既存の印刷資料リポジトリ、大学図書館の所蔵状況を比較・分析することで、その可能性を探ったものである⁽³⁰⁾(E1137 参照)。レポートでは、北米研究図書館協会 (ARL) 加盟各館と HathiTrust での図書資料の重複状況を比較し、館ごとの重複率の中央値は 2009 年 6 月時点の 20% から 2010 年 6 月時点では 30% に上昇しており、今後さらに上昇する見込みとしている⁽³¹⁾。しかし、現状での HathiTrust による印刷資料の代替については、多くの館で所蔵している古いレファレンスブックや政府資料等はデジタル化資料で代替できるとしながらも、HathiTrust で全文が閲覧できるパブリックドメインの資料は古い年代のものが大半であり、それらのみでは大学図書館のコレクションを反映したものとはならないとしている。レポートでは、既存の印刷資料リポジトリの現状等から、図書資料の大規模な共同管理がすぐ実現するわけではないが、それが実現した場合は書庫スペースや費用に関して大きなメリットがあるとし、その実現に向けた HathiTrust の貢献を指摘している。

HathiTrust では、参加館での印刷資料の所蔵状況のデータベースを構築する作業が行われている⁽³²⁾。その背景として、(1) 新たな拠出額計算において各館の所蔵する印刷資料と HathiTrust 内の資料との重複が勘

案されること、(2) 今後実施が予定されている孤児著作物プロジェクト (後述) や視覚障害者等によるデジタル化資料の利用がその館での印刷資料の所蔵を前提としていることとともに、(3) 参加館全体での蔵書構築や資料管理を促進することが示されている。さらに、HathiTrust 自身が分散型の印刷資料の共同リポジトリを運営するという案が、2011 年 10 月の HathiTrust の総会 (後述) で承認された⁽³³⁾。HathiTrust の参加館 (またはその提携機関) による複数の保管施設が協定を結び、HathiTrust 内のデジタル資料と対応する印刷資料を保存しようとするもので、今後、方針や運営計画等が検討される。

4. 著作権に関する問題

4.1. コンテンツの著作権の状態

ミシガン大学は、IMLS の資金援助により、2008 年 12 月から、HathiTrust 内の資料の著作権の状態を調査する著作権レビュー管理システム (Copyright Review Management System : CRMS) という取り組みを開始し、1923-1963 年刊行の資料について調査を行っている⁽³⁴⁾。2011 年 11 月 1 日時点で約 17 万点が調査され、そのうち約 8 万 7 千点がパブリックドメインであると判明し、それらの資料の全文も HathiTrust で公開されている⁽³⁵⁾。全体では、パブリックドメインのものは約 27% (約 260 万点) とされている⁽³⁶⁾。

著作権に関しては、著作権保護期間内でありながら著作権者が特定できず利用等の許諾を取ることができない「孤児著作物」(orphan works) の扱いが問題となっている。HathiTrust のエグゼクティブディレクターであるミシガン大学図書館のウィルキン (John Wilkin) 氏は、上記の CRMS の結果を踏まえ、HathiTrust の資料全体での孤児著作物の割合の推計を行っている⁽³⁷⁾。この推計は、おおまかな仮定に基づく部分がある点等に注意が必要であるが、推計結果として、パブリックドメインのものが 28%、著作権保護期間内で著作権者を特定できるものが 22%、そして残りの 50% が孤児著作物 (資料数では 250 万点、そのうち 80 万点が米国のもの) という数字を示している。また、出版年代が新しいほど孤児著作物の割合は少なくなるが、出版点数が増加しているため孤児著作物の数は多くなるという点も指摘している。

4.2. 孤児著作物プロジェクト

孤児著作物プロジェクトは、ミシガン大学が 2011 年 5 月に開始した取り組みで、その後、カリフォルニア大学やコーネル大学等も参加を表明している⁽³⁸⁾⁽³⁹⁾。CRMS により著作権保護期間内とされた資料を対象に著作権者の調査を行い、著作権者が特定できなかった

ものを「孤児著作物候補」としてリストを公開し、リスト公開後一定期間内に著作権者が判明しなかった場合は孤児著作物とみなしてHathiTrust内のデジタル化資料の利用を開始するというプロジェクトである。利用は該当資料の印刷資料を所蔵している（または所蔵していた）大学の関係者に限られ、同時にアクセスできるのはその大学での印刷資料の所蔵数と同じ人数となる⁽⁴⁰⁾。ミシガン大学のクーラント（Paul Courant）図書館長は、この取り組みは米国著作権法のフェアユース規定に該当するもので、対象となる作品の多くは学術資料であり、利用を開始したとしても経済的な損失を与えないだけでなく、むしろ利用をしないことが学術的に損失であると主張している⁽⁴¹⁾。2011年10月以降に第一弾として百数十点の資料の利用が開始される見込みであったが、2011年9月に米国の著作者団体から著作権調査の不備を指摘されたことを受けて利用開始は延期され、調査プロセスの再検討等が行われている⁽⁴²⁾。

4.3. 著作者団体等による訴訟

2011年9月12日、米国の著作者団体 Authors Guild、オーストラリアとカナダの著作者団体、及び8名の作家が、HathiTrust及びミシガン大学等5大学に対して著作権侵害で訴訟を起こした⁽⁴³⁾⁽⁴⁴⁾。原告は、HathiTrustがGoogleとの提携で著作権保護期間内の資料を著作権者の許諾を得ずにデジタル化していること等を問題視し、著作権法で認められる場合以外の許諾のない複製・配布・表示の中止、孤児著作物プロジェクトの中止、著作権保護期間内の作品のデジタルファイルの没収等を求めている（E1217参照）。この訴訟が、孤児著作物の扱いに関して、米国でこれまでも動きがありながら実現していない法制化も含め、どのような影響を与えるかも注目されている⁽⁴⁵⁾。

5. 開始から3年間の総括と今後

HathiTrustの運用開始からちょうど3年となる2011年10月に、初めての総会（Constitutional Convention）が開催された。

総会に先立ち作成された3年間の活動レビューでは、参加館からの意見として、「Google独占」に代わる選択肢であることや研究図書館コミュニティによる取り組みであることを評価する意見とともに、今後の方針等について情報提供の必要性や、特定の機関や人への依存が大きいことによる持続可能性への懸念等が示されていた⁽⁴⁶⁾。総会での議案討論においては、協同体制を維持しながらも、ガバナンスやプロジェクト管理等の強化に向けた変更が決定された⁽⁴⁷⁾。

総会でのプレゼンテーションにおいて、ウィルキン

氏は、これまでの主な成果として、TRACの認証、全文検索の実現、リサーチセンターの設立の3点を挙げるとともに、今後の取り組みとして、ポーンデジタル資料の収録、HathiTrustのシステムからのオープンアクセスの出版物の刊行、著作権保護期間内の資料の法律の範囲内での利用拡大等を挙げた⁽⁴⁸⁾。

ウィルキン氏は、図書館がそれぞれの能力を発揮しながら共通の課題に取り組んでいるHathiTrustは協同の素晴らしい例だとして、プレゼンテーションを締めくくった。協同の価値を重視しながら進化するHathiTrustの動向が引き続き注目される。

（関西館図書館協力課：田中 ^{たなか} ^{さとし} 敏）

- (1) “Hathi”はヒンディー語で象を意味し、記憶、知恵、力、信頼等を象徴するものとして、HathiTrustのシンボルマークにも象が使われている。発音は“hah-tee”と表記されている。
“Help - General”. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/help_general, (accessed 2011-10-12).
- (2) “Mission and Goals”. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/mission_goals, (accessed 2011-10-12).
- (3) カリフォルニア大学等はキャンパスごとに1機関としてカウントしている。
“Partnership Community”. HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/community>, (accessed 2011-10-12).
- (4) Christenson, Heather. HathiTrust: A Research Library at Web Scale. Library Resources & Technical Services. 2011, 55(2), p. 95-97.
<http://www.hathitrust.org/documents/christenson-lrts-201104.pdf>, (accessed 2011-10-12).
HathiTrustのウェブサイトでは、Googleの取り組みを補完するものとしている。
Help - Partnership. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/help_partnership, (accessed 2011-10-12).
- (5) Booth, Char. “Unlocking HathiTrust: Inside the Librarians’ Digital Library”. Library Journal. 2011-06-09.
http://www.libraryjournal.com/lj/communityacademic-librarians/890917-419/unlocking_hathitrust_inside_the-librarians.html.csp, (accessed 2011-10-12).
- (6) 2012年の予定運営費は約190万ドルとされている。
“Notes of the HathiTrust Constitutional Convention October 8-9, 2011”. HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/documents/HathiTrust-ConCon-Notes.pdf>, (accessed 2011-11-14).
- (7) “Help - New Cost Model”. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/help_new_cost_model, (accessed 2011-10-12).
- (8) HathiTrust. <http://www.hathitrust.org/>, (accessed 2011-11-14).
- (9) York, Jeremy. “This Library Never Forgets: Preservation, Cooperation, and the Making of HathiTrust Digital Library”. IS&T Archiving Conference 2009 Proceedings. Arlington, USA, 2009-05-07/08, Society for Imaging Sciences and Technology, 2009, p. 5-10.
<http://www.hathitrust.org/documents/This-Library-Never-Forgets.pdf>, (accessed 2011-10-12).
- (10) Google Inc. “Cooperative Agreement”. University of Michigan.
<http://www.lib.umich.edu/mdp/um-google-cooperative-agreement.pdf>, (accessed 2011-10-12).
- (11) “Update on October 2011 Activities”. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/updates_october2011, (accessed 2011-11-14).
- (12) “HathiTrust Languages”. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/visualizations_languages, (accessed 2011-10-12).
- (13) “HathiTrust Dates”. HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/visualizations_dates.

- (accessed 2011-10-12).
- (14) この節の記述は、主に次の資料による。
York, Jeremy. "Building our future by preserving our past: the HathiTrust Digital Library". IFLA Gotenburg 2010 Proceedings. Gothenburg, Sweden, 2010-08-10/15. IFLA, 2010, p. 1-11.
<http://www.ifla.org/files/hq/papers/ifla76/157-york-en.pdf>, (accessed 2011-10-12).
York, Jeremy. "From Ingest To Access: A Day In The Life Of A HathiTrust Digital Object". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/documents/HathiTrust-PASIG-200910.pdf>, (accessed 2011-10-12).
- (15) "HathiTrust Audit Report 2011". Center for Research Libraries. 2011-03-30.
<http://www.crl.edu/archiving-preservation/digital-archives/certification-and-assessment-digital-repositories/hathi>, (accessed 2011-10-12).
- (16) "Digital Object Specifications (METS and PREMIS)". HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/digital_object_specifications, (accessed 2011-11-07).
- (17) 著作権確認作業によりパブリックドメインであることが判明したものや権利者の許諾が得られたもの等は、利用条件等が再設定される。
- (18) 例えば、次のもの等がある。
Nunberg, Geoffrey. "Google's Book Search: A Disaster for Scholars". Chronicle of Higher Education. 2009-08-31.
<http://chronicle.com/article/Googles-Book-Search-A/48245/>, (accessed 2011-10-12).
- (19) "Quality". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/quality>, (accessed 2011-10-12).
- (20) ミシガン大学等が、サンプル資料 1,000 点について、それぞれ 100 ページずつのチェックを行うとともに、原資料の確認も行い、課題の把握等を行うプロジェクトを実施している。
"Validating Quality in Large-Scale Digitization". University of Michigan.
<http://hathitrust-quality.projects.si.umich.edu/index.htm>, (accessed 2011-11-14).
- (21) "Update on August 2011 Activities". HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/updates_august2011, (accessed 2011-10-12).
- (22) Wilkin, John. "HathiTrust and Discovery". HathiTrust. 2011-06-24.
<http://www.hathitrust.org/blogs/perspectives-from-hathitrust/hathitrust-and-discovery>, (accessed 2011-10-12).
- (23) "Data Availability and APIs". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/data>, (accessed 2011-10-12).
- (24) ミシガン大学やシカゴ大学等の大学図書館やオーストラリア国立図書館のシステム等で、HathiTrust 内の資料の検索ができる。
"Searching, Reading, and Building Collections". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/access>, (accessed 2011-10-12).
- (25) Rapp, David. "HathiTrust and OCLC Unveil Prototype WorldCat Local Search Interface". Library Journal. 2011-01-26.
http://www.libraryjournal.com/lj/communityacademiclibraries/888974-419/hathitrust_and_oclc_unveil_prototype.html.csp, (accessed 2011-10-12).
- (26) Rapp, David. "HathiTrust's Growth Strategy: Full-Text Search Coming to WorldCat and EBSCO Discovery Service". Library Journal. 2011-09-08.
http://www.libraryjournal.com/lj/home/891965-264/hathitrusts_growth_strategy_full-text_search.html.csp, (accessed 2011-10-12).
- (27) "HathiTrust Research Center". HathiTrust Research Center.
<http://www.hathitrust-research.org/>, (accessed 2011-10-12).
- (28) 機械的に処理するだけで人間が文章を読むのではないため、「非消費的」(non-consumptive)と呼ばれる。
Rapp, David. "Text-Mining Ahead: HathiTrust Research Center to Open Corpus to Researchers". Library Journal. 2011-04-28.
http://www.libraryjournal.com/lj/communityacademiclibraries/890376-419/text-mining_ahead_hathitrust_research.html.csp, (accessed 2011-10-12).
- (29) "Mission and Goals". HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/mission_goals, (accessed 2011-10-12).
- (30) Malpas, Constance. "Cloud-sourcing Research Collections: Managing Print in the Mass-digitized Library Environment". OCLC Research. 2011.
<http://www.oclc.org/research/publications/library/2011/2011-01.pdf>, (accessed 2011-10-12).
- (31) HathiTrust による 2011 年 10 月の資料では、2011 年 6 月時点で 45% と推測されている。
Wilkin, John. "HathiTrust's Past, Present and Future". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/documents/HathiTrust-ConCon-Wilkin-remarks-201110.pdf>, (accessed 2011-11-10).
- (32) "Update on July 2011 Activities". HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/updates_july2011, (accessed 2011-10-12).
- (33) "Constitutional Convention Ballot Proposals". HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/constitutional_convention2011_ballot_proposals#proposal1, (accessed 2011-10-12).
- (34) 米国では 1923 年より前に刊行されたものはパブリックドメインとなっている。1923-1963 年に刊行されたものは、著作権の更新がなされていない場合等はパブリックドメインとなるものがある。
Wilkin, John. "Bibliographic Indeterminacy and the Scale of Problems and Opportunities of "Rights" in Digital Collection Building". Ruminations. 2011-02.
<http://www.clir.org/pubs/ruminations/01wilkin/wilkin.html>, (accessed 2011-10-12).
- (35) "Copyright Review Management System". University of Michigan.
<http://www.lib.umich.edu/imls-national-leadership-grant-crms>, (accessed 2011-11-14).
- (36) HathiTrust. <http://www.hathitrust.org/>, (accessed 2011-11-14).
- (37) Wilkin, John. "Bibliographic Indeterminacy and the Scale of Problems and Opportunities of "Rights" in Digital Collection Building". Ruminations. 2011-02.
<http://www.clir.org/pubs/ruminations/01wilkin/wilkin.html>, (accessed 2011-10-12).
- (38) Rapp, David. "HathiTrust Orphan Works Project Grows as University of California, Others Join Up". Library Journal. 2011-09-01.
http://www.libraryjournal.com/lj/community/academiclibraries/891836-419/hathitrust_orphan_works_project_grows.html.csp, (accessed 2011-10-12).
- (39) 2011 年 5 月という時期については、孤児著作物のデジタル資料の利用が可能となる内容を含んでいた Google ブックス訴訟の修正和解案が 2011 年 3 月に裁判所により却下されたこととの関連性に言及している報道もある。
Parry, Marc. "U. of Michigan Copyright Sleuths Start New Project to Investigate Orphan Works". Chronicle of Higher Education. 2011-05-16.
<http://chronicle.com/blogs/wiredcampus/u-of-michigan-copyright-sleuths-start-new-project-to-investigate-orphan-works>, (accessed 2011-10-12).
- (40) "Information about the Authors Guild Lawsuit". HathiTrust.
http://www.hathitrust.org/authors_guild_lawsuit_information, (accessed 2011-10-12).
- (41) "U-M Library to share HathiTrust orphan works". University of Michigan. 2011-06-23.
<http://www.ur.umich.edu/update/archives/110623/orphanworks>, (accessed 2011-10-12).
- (42) "U-M Library statement on the Orphan Works Project". Mlibrary. 2011-09-16.
<http://www.lib.umich.edu/news/u-m-library-statement-orphan-works-project>, (accessed 2011-10-12).
- (43) Authors Guild. "Authors Guild, Australian Society of Authors, Quebec Writers Union Sue Five U.S. Universities". 2011-09-12.
<http://www.authorsguild.org/advocacy/articles/authors-3.html>, (accessed 2011-10-12).
- (44) 2011 年 10 月 6 日には、英国、ノルウェー、スウェーデンの著作者団体、カナダの別の著作者団体等も原告に加わった。
Authors Guild. "Authors Groups From U.K., Canada, Norway and Sweden Join Authors Guild, Australian Society of Authors, and Quebec Writers Union in Suit

- Against HathiTrust". 2011-10-06.
<http://blog.authorsguild.org/2011/10/06/authors-groups-from-u-k-canada-norway-and-sweden-join-authors-guild-australian-society-of-authors-and-quebec-writers-union-in-suit-against-hathitrust/>, (accessed 2011-10-12).
- (45) 訴訟により議会が孤児著作物の問題に取り組むのがさらに遅れることになるとの見解がある一方、訴訟の狙いが法制化を促すことにあるとの見解もある。また、欧州のARROWプロジェクトのように、図書館、出版社、権利団体等が共同で解決に取り組むのが望ましいとする見解もある。
- Grimmelmann, James. "The Orphan Wars". Laboratorium. 2011-09-12.
http://laboratorium.net/archive/2011/09/12/the_orphan_wars, (accessed 2011-10-12).
- Smith, Kevin. "Is it all about the Orphans?". Scholarly Communications @ Duke. 2011-09-15.
<http://blogs.library.duke.edu/scholcomm/2011/09/15/is-it-all-about-the-orphans/>, (accessed 2011-10-12).
- Brantley, Peter. "The Orphan Path Not Taken". PWxyz. 2011-09-20.
<http://blogs.publishersweekly.com/blogs/PWxyz/?p=6920>, (accessed 2011-10-12).
- (46) Ithaka S+R. Briefing Paper on Progress and Opportunities for HathiTrust. 2011-07-15.
<http://www.hathitrust.org/documents/hathitrust-review-2011.pdf>, (accessed 2011-10-12).
- (47) "Notes of the HathiTrust Constitutional Convention October 8-9, 2011". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/documents/HathiTrust-ConCon-Notes.pdf>, (accessed 2011-11-14).
- (48) Wilkin, John. "HathiTrust's Past, Present and Future". HathiTrust.
<http://www.hathitrust.org/documents/HathiTrust-ConCon-Wilkin-remarks-201110.pdf>, (accessed 2011-11-10).